宮古新報
6月24日
8面

宮古の魅力ある商品を

機内販売むけ企画・立案

JTA産学連携

琉大生が調査、商談

日本トランスオーシャン航空（JTA）と琉球大学の産学連携プログラムとして23日から、同大学観光産業科学部の生徒たちが宮古島をテーマに機内販売商品の調査や商談、WEBページ制作に向けたロケハンに市内各地で取り組んでいる。同大学のインターンシップで商品の企画・立案、販売まで行うのは初めてで、観光業をマネジメントできる人材の育成を目指している。

このうち機内販売を担当する同大学3年の二階堂美南さんと照屋華楠さんら＝写真＝が23日、宮古新報社を訪れて今回のプログラムについて説明。機内販売は今年9～10月を予定。2人は市内の店舗や事業所などで商品を調査し、商談を行う。また別の学生はJTAホームページ内の観光情報サイトに掲載する宮古のWEBページを制作する。

2人は機内販売に何が求められているかSNSでアンケートを行った。二階堂さんは「利用者が多い20～40代の女性に興味を持ってもらえる商品を紹介できれば」、照屋さんは「アンケートでは食品やアクセサリーが多く、宮古で『これは良い』と魅力を感じてもらえるものを提供したい」とそれぞれ説明。

プログラムを通して二階堂さんは「マーケティングの力を身に付け社会に出て生かしたい」、照屋さんは「企業の企画に携われる機会は少なく、この経験をゼミや友人にも伝えてみんなで成長したい」と話した。